

# 日本民家園 花便り 10月号 (1)

## ～暮らしと植物～日本文化は稲と共に

稲刈りのあと



(原家裏)



モミ



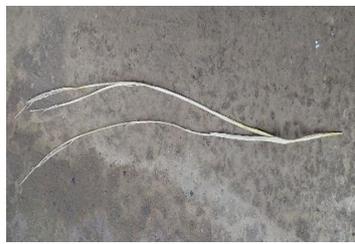
根株

稲は乾かしたあと脱穀し、モミとワラに分けます。モミは‘モミすり’と‘精米’を経て米に。米は炊いて食べるだけでなく、発酵させて酒やみりんや酢になります。根株は有機肥料として活用されます。

脱穀あと



(作田家)



ワラ

脱穀後のワラは、茎(カン)と葉(ハカマ)とモミを取り除いた穂(ミゴ)に分け、それぞれの特性を生かして利用します。



藁(ミノ)



俵



筵(ムシロ)



土塀(広瀬家ほか)

茎(カン)はそのまま使ったり、‘ワラ打ち’をして柔軟で強靱な繊維にしたのち、‘わらぐつ’や‘わらじ’など様々な生活用品に加工されてきました。葉(ハカマ)は‘わら布団の詰め物’にしたり、飼料にしたり、土塀作りのツナギの役割も。

モミすりと精米のあと



ぬか袋(原家)

モミすりで除去されたモミ殻は、野菜貯蔵の保湿・断熱材・緩衝材に、焼いて肥料(燻炭)に利用されてきました。精米で出た糠(ヌカ)は‘漬物用ぬか味噌’だけでなく、園ではその油性を生かし‘ぬか袋’にして床板などを磨き上げるのに使っています。

\* 稲には灰や畳の芯など、他にも多くの使い道があり、無駄なくリサイクルされてきました。